

【歌詞】

花筏はないかだ 乗せて色いろよき振りの袖ゆかた しゃんと凜々りりしき梅柳うめやなぎ ながめも恋のふち瀬川

岩井の水に市川の ながれも清きすみだ川 ここにうつして舟の内

門之助「痴話ちわか 菊之丞「イイエ 門之助「くぜつか 半四郎「イイエ 門之助「色事いろことか

歌「あいやい傘のしおらしや

二挺立ちにちよう 三挺立ちさんちよう 夕は上げるぞ その気で持て来い

面舵おもかじ 合点がてんじや 椎の木じや やっしっし

並木駒形花川戸 あれ浅草の観世音 浮気波立つ待乳山

今戸橋から乗り込め 乗り込め とろさになって やっしっし

旦那お早いご来臨らいりん ちようど夜見世のすががきに 浮き立つ恋の色の仲の町

「ありやなしやの物思い 仮名でしっぽり逢う夜よの合図 君と主ぬしとのその恋仲は 岩より

「石より堅い誓言せいごん誓紙せいしの数も 解けぬ思いを細々と 封じこめたる玉章たまずさは 参らせ候そとらの筆の海

「恋をする身は 浜辺の千鳥 夜よごとく袖濡らす しようがえ

深い浅いの愚痴ぐちと無理 恨みも解けて春の雪 尽きぬ縁えんの睦むつましや